

## 認知症の方を理解して生活に 寄り添える歯科医療を目指すためには ～認知症の原因と特性を理解する～

日本大学松戸歯学部障害者歯科学講座  
遠藤真美

1

## 終末期における「健康」

### ナイチンゲール

Health is not only well, but to be able to  
use well every power we have to use.



北海道医療大学名誉教授 石垣靖子先生訳

障害や病気があっても、例え終末期を生きてい  
ても、使わなければならない時に持っている  
全ての力を使うことができれば「健康」という  
ことができる。

2

## 自分らしく生きる証の口腔機能

食べる、話す、呼吸、表情といった口腔  
機能を通して自分らしさを叶える。



老化・加齢によって機能減退する



機能減退したとしても、各機能をうまく付き合う  
ことで、自分らしい生を生き、自分らしい死をむ  
かえることにつながる。



エンドオブライフケア

患者とその家族にとってできる限り良好なQOLを  
実現させる（WHO：緩和ケアの最終目標）

3

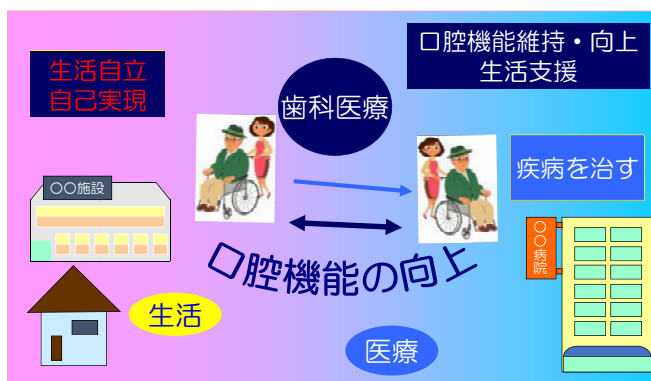
## 私の考える『食事』とは

食材を**認知**し、**かむ**ことから**味わい**、**おいしさ**  
を感じ、**美しい**所作を学びながら**楽しい**気持ちを  
食事をする人たちと直接的に**共有**し、また、食材  
や食事を作ってくれた方々への**感謝**といった間接  
的なコミュニケーションをはかる行為であって、  
他者との関わりの中で**人間らしさ（人間くささ）**を感じ  
る場。



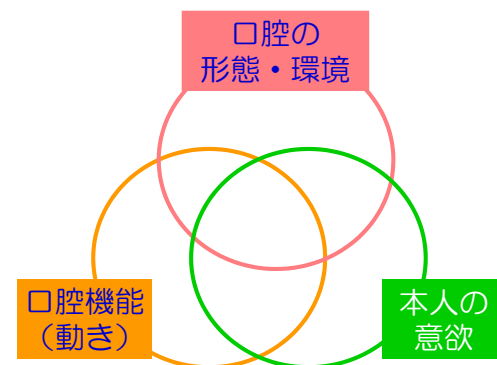
遠藤真美：『食べる』ということを考える一形態回復、機能回復から生活支援へ、ヘルスサイエンス・ヘルスケア、15,69-70,2015.

## 生活（福祉）と医療



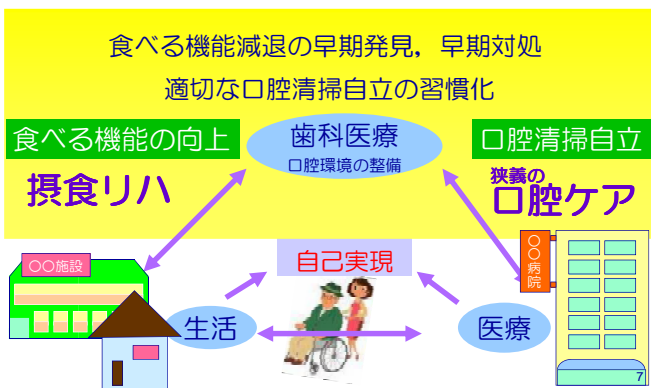
遠藤真美：『少子高齢化社会だからこそ知っておきたいこと』なぜ、今、機能なのか？、  
the Quintessence 31巻 1412-1413、2012年

## 最期まで おいしい食事を実現するには



6

## 口腔機能からみた生活支援



7

## その方に起きた“何か”とは何か？

- ・長年、通院されている方が「道に迷った」と遅刻
- ・予約に必ず来ていた方が、何度も無断キャンセル
- ・窓口で少額の支払いにも必ず1万円を出してくる
- ・何年も安定していた口腔内が不潔になる
- ・患者さんの若いころの話題ばかりを言うてくる
- ・コップにゴミがついていると気にして嗽いがない
- ・入れ歯が入られない
- ・食欲不振
- ・食事が難しくなる

8

## 食事に関する訴え

外来で来られるのだから、元気なはず！！  
しっかり義歯を使って咀嚼してください  
時間通りに来ないと拝見しませんよ！！  
と注意するだけで良いのか？



厚生労働省

9

## 患者さんの何かの変化に気づくには？

相手の生活気持ちに寄り添い、心配りをしながら  
お互いの想いを交流させ、医療者の眼でアセスメントを行う

日頃からの人との関わり 関連する全身疾患を理解

外来診療を中心に歯科医療を施す中で  
決して全てを担う必要はない。  
生活支援を行う歯科医療者だからこそ、第一発見者  
として、患者の死に際の満足に向けた支援を。 10

## 全身のアセスメント：高齢者の特徴

- ① 予備力の低下 → 病気ではない機能低下！！
- ② 恒常性維持機能の低下
  - ・体温調節機能の低下
  - ・水、電解質バランスの異常
  - ・耐糖能の低下
  - ・血圧の低下
- ③ 筋力の低下
- ④ 複数の病気や症状
- ⑤ 症状が非典型的
- ⑥ 現疾患と関係の無い合併症
- ⑦ 感覚器機能の低下
- ⑧ 精神的な変化⇒心身相関としての訴えも…  
※社会的環境などの影響による個人差が大きい



11

## 三大認知症

1. アルツハイマー型認知症
2. 脳血管性認知症
3. レビー小体型認知症
- +
4. 前頭側頭型認知症



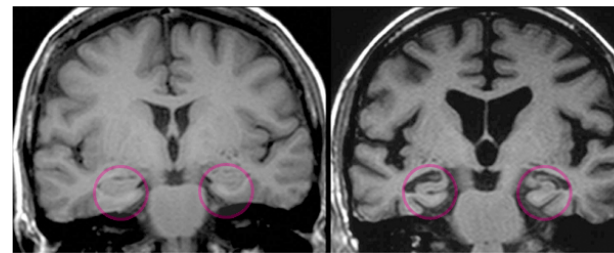
原因が異なる認知症！  
当然、対応も異なります！

12

## アルツハイマー型認知症

1. 全認知症患者の60%
2. 徐々に進行する認知障害が主症状
3. 物忘れ（エピソード記憶）からの発症が多い
4. 症状
  - ① 早期から高次脳機能障害が低下
  - ② 進行と共に暴言、暴力、徘徊、不潔行為などの周辺症状が出現
  - ③ 後期には以前の記憶が喪失し、判断力や理解力がほとんど失われる
5. 原因  
脳内にアミロイドβ蛋白とリン酸化タウ蛋白蓄積

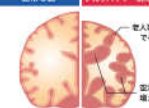
13



健常者

アルツハイマー病

早期からの抗認知症薬を使用して  
発症、症状進行を予防できることが  
理解されている。



○ 海馬：記憶をつかさどるところ

14

## アルツハイマー型認知症と食事

1. 軽度から、**先行期の障害**が生じる  
例）パックにストローをさせない  
食品パックの開け方がわからない
2. **食具の失行**から手づかみ、一口量の調整ができない、むせ、食べこぼしなどが見られる。  
進行とともに介助が中心に。
3. 最終的には、歩行障害など共に嚥下機能低下が  
起き**食事困難**となる



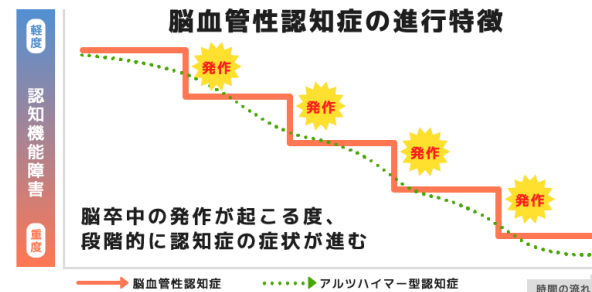
15

## 脳血管性認知症

1. 全認知症患者の15%
2. 障害された部位により症状は異なり、進行障害発生と時間的に関係
3. 認知機能は低下するが日によって異なる
4. 症状
  - ① 記憶障害が必ず起きるわけでない
  - ② 人格は比較的保たれる場合が多い
  - ③ 感情失禁を伴いやすい
5. 原因  
脳梗塞や脳出血などの脳血管障害の後遺症

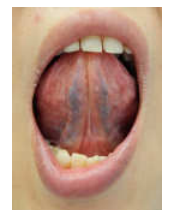
16

### 脳血管性認知症の進行特徴

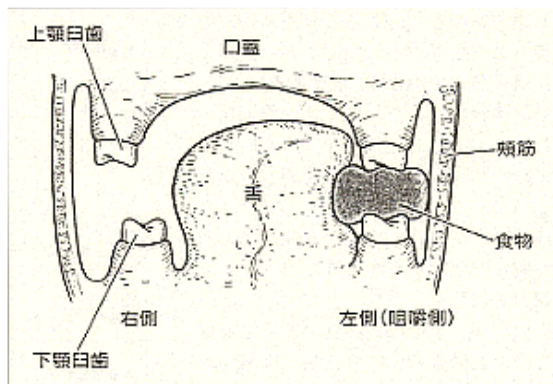


17

## 口腔周囲筋の機能低下

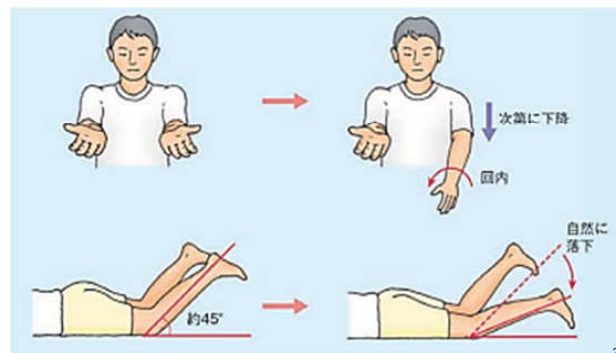


18



19

## バレー徴候

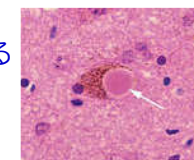


20

## レビー小体型認知症

1. 全認知症患者の15%
2. レビー小体の形成を特徴とする
3. 症状
  - ① 認知機能の低下
  - ② せん妄
  - ③ 幻視
4. 原因
 

レビー小体の蓄積による脳の萎縮  
パーキンソン病との類縁関係



## オーラルディスキネジア



立つと斜めになる

口腔内に違和感を訴えることも多い。実際に症状があるものの、幻覚などからその症状を強く表現することもある。

22

## レビー小体型認知症と食事

1. パーキンソン症状で動作が困難
2. 覚醒のオンとオフがはっきりしている。オフの時は、呼びかけなどでは難しく、嚥下中枢なども機能低下している可能性。
3. 食事の中に虫が混入しているようにして摂食拒否する。(幻視)
4. 食事中の空すくい、空振り、うまく口に運べない、何か食事以外のものが見えて気になる。

23

## 前頭側頭型認知症

1. ピック病とも呼ばれる
2. 65歳以下の若年発症が多い
3. 性格変化と社交性の消失が初期からみられる
4. 症状
  - ① 高度の性格変化
  - ② 社会性の喪失や注意、判断、実行機能などの能力低下
  - ③ 語彙数が減少していき、自発的に発言しない
5. 原因
 

前頭葉、側頭葉を中心に萎縮

24



- 自閉症のような様子
- 同じ動き、同じ行動へのこだわり
- 自閉症の人たちへと同様な関わり方をすることで、社会生活が改善する場合が多い。
- びっくりまなこ
- いきなり足を組んで横柄な態度

25

## 認知症の原因と主な特徴

	アルツハイマー型認知症	レビー小体型認知症	前頭側頭型認知症	脳血管性認知症
発症の割合	50%	20%	10%	15%
発症年齢	70代以上	70～80代以上	65歳以下	60代以上
性差	女性に多い	男性に多い	不明	男性に多い
特徴的な症状	記憶障害、見当識障害	パーキンソン症状、記憶障害	反社会的行動	嚥下障害、まだら認知症
特徴的な行動	暴言、暴力、不潔行動	幻視、視野による行動	反社会的行動など	失認・失効、感情失禁
罹患期間	8～10年	7年	6年	—

出典: 認知症患者さんにあなたは何かができますか? DH style 8月号

26

## 精神面の確認

目の前の方に対し、疾病モデルだけで対応しても誰も幸せにならない！



食べられないのか？  
食べたくないのか？  
食べさせてないのか？

相手の気持ちになって耳を傾ける事が最も大切

27



# 認知症？ うつ病？

話しても反応が無い。  
わかってなさそう、  
会話ができない、  
攻撃してくる、  
認知症に話しても…ではない。



沢山の薬を飲んで(飲まされて)いるけれど・・・

28

## 認知症が進行した場合の治療計画

進行した認知症の方の想いを知ることは難しい。

➡ 介護者の希望が反映されやすい。

- ・要介護だから、何もしないでと治療に消極的
- ・新義歯装着で必ず咀嚼できると治療に積極的

➡ 患者と周囲の希望に乖離を認める場合も多い

本人の納得が得られないと良好な治療効果が得られないだけでなく生活への活力も減退し、認知症などの症状が進行する可能性も否めない。  
若いころからの関わりであれば、相手の価値観への配慮も重要

29

## 病気のある人の“生きる”目標

- ・「病気を治すこと」は身近な目標としてあるかもしれない。
- ・しかし、したいことが病気を治すことなのか。

30

## Going upstream!!

Prevention and Ethics : Going upstream  
John W. Wittrock, D.D.S., M.A.  
(Extract)  
A story will illustrate the point. A dentist saw a baby floating down a stream and immediately rushed into the water and rescued him. No sooner had he restored breathing, than he noticed another baby floating by. As he was rescuing the second, a man appeared on the bridge and asked if he needed help. The dentist said he could use help, perhaps it would be best for him to go upstream and see who was putting them in! Waiting for the babies to come downstream before they are rescued isn't the most ethical of the two solutions. We must go upstream.

手前と後進

一つの物語が重要なことを教えています。歯科医は川に流されている赤ちゃんを見つけ、直ちに飛び込みその赤ちゃんを助けました。彼は息つく暇もなく、別の赤ちゃんが流れてくるのを知りました。彼が2番目の赤ちゃんを助けていた時、橋の上で見ていた1人の人が、手伝いましょうかと尋ねました。歯科医は答えました。「手伝ってくれるなら、何よりも、上流に行って、彼が赤ちゃんを川に投げ込んでいるのかを見てほしい。」と。赤ちゃんが流れてくるのを待って助けることが、問題解決において最善なことではないのです。私たちは、上流へ行かなければならないのです。

住民の健康を守り、改善していくために

- ① 目の前の病気を治療し、失った機能を回復させる。
- ② 病気が発生する背景を知って、病気が発生しないように対策を講じる。
- ③ ① だけ：患者は満たない。 → ② 健康を求めている地域住民のニーズに答えていない。

31

## 高齢者に対する適切な医療提供の指針 日本老年医学会

1. 高齢者の多病と多様性
2. QOLの維持・向上を目指したケア
3. 生活の場に即した医療提供
4. 高齢者に対する薬物療法の基本的な考え方
5. 患者の意思決定を支援
6. 家族などの介護者もケアの対象に
7. 患者本人の視点に立ったチームアプローチ

32

## 日本老年医学会「立場表明2012」

高齢者の医療およびケアにおいては、苦痛の緩和とQOLの維持・向上において最大限の配慮がなされるべきである。“生きていること”意味があるケアをする必要性

↓

何らかの治療が患者本人の尊厳を損なったり苦痛を増大させたりする可能性があるときには、治療の差し控えや治療からの撤退も選択肢として考慮する必要がある

33

## 不要な治療を終了して看取ること

- ・厚労省：2007  
終末期医療の決定プロセスに関するガイドライン
- ・日本救急医療学会：2007  
終末期医療ガイドライン
- ・日本老年医学会：2012  
立場表明2012
- ・日本老年医学会：2012  
人工的水分・栄養補給法の意思決定プロセスガイドライン
- ・日本透析医学会：2014
- ・救急・集中治療・循環器学会合同：2014

34

## あなたは、 あなただから大事なのです

シシリー・ソンドース

You matter because you are you.  
You matter to the last moment of your life,  
and we will do all we can not only to help  
you die peacefully, but also to live until you  
die.

チェックリストだけで？  
アセスメントだけで相手を知り、相手の人生を支えられるのか？

対話・コミュニケーションの重要性

35

## 私の理想とする立ち位置

## Not doing, but being.

出来ることは行いながら、シームレスな支援となるように  
何かをしなくても、そばにいてこと

36